

幼稚園は如何なる處か

— 愛兒を幼稚園に托さるゝ家庭の方々へ —

倉橋惣三述

一、幼稚園は幼稚園

幼稚園は如何なる處か、それは幼稚園といふ名が一番よく現して居る。幼稚園は幼い子供の庭と書いてある、その意味は小さい小供が楽しく遊ぶ庭といふ意味にとれぬこともないがこの名前が持つてゐる意味はもう少し深い意味であります。幼稚園といふ名は今から百五十年ばかり前にフンペルといふ人が始めてつけた名でありますがそれから後世界中何處の國でもこの通りの名前をつかつてゐます。幼稚園とか或は幼児教育所とか言うてもよささうであるが特に園といふ字を使つてゐるところに幼稚園の幼稚園たる所があるのであります。園即ち花園とは如何なる所かと考へてみますると種子を蒔いてそれが漸次に成長して延びて行くところであります。この種子が延びて一本の草花になるといふには園丁の限らない心づくしにも依ることであることは言ふまでもありませんが如何に園丁が特別な技倆を持つて居り、又甚麼に一生懸命働いたとしても命の無いものを育て、ゆくことは出来ないものであつて、即ち種子に自分で延びてゆく大きな力があり、その力が自然の土のうるほひや或ひは日光の暖かさに養はれて延びて來るのであります、つまり自分で成長してゆくことの出来る力を持つてゐる種子が延びてゆく場所であります。でこの種子は荒地に落ちても或は砂地に落ちてもその強い力で何とか延びて行けないこ

とはないかも知れません。たゞ子供が幼稚園に來るのはその柔かに耕された地に種子の蒔かれたと同じやうなものであつて、その子供の自分で持つてゐる力で最も幸に都合よく延びてゆける場所といふに外ならないのであります。幼稚園は小さい子供を集めて教育するところであるといふことの意味を何か外から子供にものを教へたり、或ひは子供を特別なものに育て上げたりするところだといふ意味に解しては非常な間違ひであります。幼稚園の教育は今日ではかなり研究せられました、色々な方法も考へ出されて居ります。又幼稚園の先生は子供を育てる上に於て専門の勉強をした人でその力は非常にすぐれたものでありますけれども無理に子供を何か拵へ上げて了はうとすることは決してしないのであります、即ち幼稚園は決して温室ではない、温室を拵へて種子を不自然に成長させたり、時ならぬ時に花を咲かせたりすることは出來ないことではありません、即ち未だ學校にゆかぬ子供に字を教へたり、いろ／＼の智慧をつけたり、いろ／＼の藝事を教へ込むことは出來ないことではありません、けれども温室で早く咲かせられたところの花は矢張早く枯れなければならぬと同じやうに、さういふ早い教育をされるといふことは決して子供の仕合せではない、又幼稚園は決して器用に巧者に枝振りを拵へ上げる植木屋でもない、幼稚園へ來る位の小さな子供は或ひは叱つたり或ひは抑へつけたりして、こちらで思ふ通りのものに拵へ上げようとするればこれも必ずしも出來ないことではない、しかし植木屋によつて無理に枝を曲げられたり、矯められたりしたところの植木が一寸見て面白い鉢物として人にめづらしがられて床の間に置かれたり、飾りものにされたりすることはあつても、それはもうそれきりであつて、それ以上延びもしなければ發達もとまつて了ふ。小さい子供も斯ういふ目に會ふことは決して幸ひとは言へないのである。それならば子供にとつて本當の幸ひとは何ういふことかと言へば出來るだけの、び／＼と

した發達を遂げさせて貰ふことである。幼稚園はこの幸福を子供に與へるところといふに外ならない。そこで幼稚園では、出来るだけ子供の身體からだも子供の心も存分に延びさせることに、全力を盡すのであります。さて身體を十分に發達させるには何うしたらいいかと云へば、手を取り足を取つて引張り餘のやうに引き延ばすわけにもゆかない、それには子供に十分廣いところで運動させるより外はない、元來人間の身體、殊に子供の身體は凝つとしてゐることは嫌ひであつて、運動を求めてゐるのである。その求めてゐる運動をさせずに置けば、身體は次第に衰弱する、その求めてゐる運動を満足させてやれば、身體は發達するといふことになる、これは格別説明をするまでもない、分り切つた話であるが心を延ばすのも同じ理窟でたゞ無暗に押し出したり、引き延したりするわけにはゆかぬ、心は身體と同じやうに或ひは身體よりもつと以上に凝つとしてゐることが嫌ひであつて、常に動き、働き、活動を求めてゐるのである。この活動を抑へつけて働かせなければ心は次第にいぢけて了ふ、この活動に満足を與へていけば次から次へと活動して、いくらでも心が延びてゆくのである。幼稚園の骨を折つて居ることは何ういふ風にしてこの子供の身體殊に心の活動に満足を與へやうかといふことにあると言つてもいい。一口にいへば幼稚園は子供の心と身體の活動慾に正當な満足を與へて、それによつて子供を存分に延ばしてゆくところであると言つていいのである。

二、幼稚園と子供の遊び

幼稚園が前に述べたやうな意味のところであるとするならば、幼稚園に於て何よりも大事なものは子供の遊びといふことになる、子供の遊びといふものは昔から非常に誤解せられて如何にも下らないもの

つまらないもの、時にはわるいものとさへも考へられて居た、とりわけ子供を教育しやうといふやうな場合に於ては遊びは非常に邪魔ものゝやうに取扱はれる。「遊んでばかりゐて困ります」「遊んでばかりゐてはいけない」といふやうな言葉は始終聞かされるお小言である、ところがよく／＼考へてみると子供にとつて遊びほど幸福で又貴いものはない、子供の遊びはつまり子供の身體と心との旺んな活動が外に現れたものに外ならないものであつて、子供が遊ぶといふことは大袈裟に言へば、つまり子供が生きてゐるといふことと同じ意味であると言つてもいいのである、昔から子供の遊びをつまらないものだと思ふことがあつたのはつまりそれが何の役に立つかといふことを大人と同じやうな意味で見えてゆき過ぎたからであつて、一時間遊んだからこれだけ仕事が出来たとか、一日遊んだからこれだけ役に立つ用が出来たとはいふことでは勿論ない、けれどもその遊びの中で自然に子供が身體と心とを活動させて居るところから起る子供にとつての利益といふものは實に非常なものである、子供が遊んで困ると口癖のやうに言ふ人もその子供が遊ばなくなつたら何うでありませうか、傍から頼たんだところで、又遊びの必要を言つて聞かしたところで、又叱つたところで、子供は本當に遊ぶものではない、もし子供が一切遊ばないといふことになつて了つたなら我々は何處で子供を活動させてゆくことが出来やうか、殊に子供の身體と心とを存分に活動させて行くといふことを大きな目的としてゐる幼稚園といふものにとつては子供の遊びは何よりも大事なものと言はなければならぬ、或人は塙の外から幼稚園をのぞいてみて「何だ遊ばしてばかり居るではないか」といふ人もあるかも知れない、又「幼稚園に通はしたのに何一つ役に立つやうなことは教へてくれないでたゞ毎日々々遊ばしてばかりゐる。」と言つて不足を述べる人があるかも知れない、斯ういふ人は幼稚園といふものを一番分つてゐてくれない人であつて、「流石は幼稚園で

ある、自家^{うち}では遊ばない子供もこゝへ來ればあんなによく遊ぶ、よくもあゝやつて一生懸命遊ばれるものだ」と言つてもらつたならばこれは幼稚園にとつて大きな名譽である、即ち前に述べたことをもう一度他の言葉で言つてみれば幼稚園は子供を遊ばせるところだと言つて差支ないのである。ところでこの子供を遊ばせるといふことをもう少し進んで考へて見ると何うしても三つのことにならなければならぬ。その一つは子供の遊びたいといふ心を満足させてやるといふことである。子供はそれが健康な子供である限りは遊びたくて遊びたくて堪らない、而かも家庭に居つても又往來に出ても却々思ひ切り存分に遊ぶといふことは六ヶ敷いことが屢々ある、場所が少くて遊べないこともある、道具が無くて遊べないこともある、遊び方を知らないために遊べないこともある、相手がなくて遊べないこともある、幼稚園はこの不満足から子供を救つてやつて、場所も與へ、道具も與へ、相手も與へ、又遊び方も教へて、子供の遊びたさを出來るだけ満足させてやらうとするのである、ところが子供の中には十分に遊ぶ氣のない子供があることがある、又本當の自分の力の一部分しか出し得ないで居る子供がある、さういふ子供のためには誰かその子供の活動を上手に引き出してやるものがなければならぬ、一寸引き出して貰へばそれからそれへと活動の慾が起つて來てその子供の愉快も幸福もずん／＼と増してゆくのである、幼稚園が子供を遊ばせるといふ第二の役目はこの點にあるのであります。即ち幼稚園はたゞ遊びたい子供を遊ばしてやるといふばかりでなく、子供を益々遊びたいものに導いてやるのであります、ところでこの二つの意味で子供を遊ばせて居れば幼稚園の任務が濟むかといふにさうは言へない、子供の遊びは非常に大切なものであるけれども未だ經驗も考もすくない子供としてはその遊びが時としては間違つた方に行かないとも限らない、もしさういふことがあつた時にそれを正しい方へを導いてゆくといふことは

是非とも必要なことではなければならぬ、前から子供の遊びに正當な満足と云つてゐるのはつまりこのことであつて幼稚園が子供を遊ばせるといふことの内には言ふまでもなくこの意味も入つてゐるのである、けれども幼稚園の第一の役目は子供の遊びに満足と云つてやることであつて、教育と六ヶ敷く考へてこの満足と云ふことを忘れて了ふやうなことの無いやうに氣をつけなければならぬ。

三、幼稚園の先生

今まで幼稚園、幼稚園といふことである／＼考へて來ましたが、さてその幼稚園とは何を言ふのであらうか、あの建物が幼稚園でありませうか、あのお庭が幼稚園でありませうか、あの机が幼稚園でありませうか、あの玩具が幼稚園でありませうか、これらは皆幼稚園にとつて大事なものであるに相違ないのであります、斯ういふものがいくらあつても幼稚園といふものは成立たない。幼稚園の本體はさういふものを言ふのではないのであつて、子供を教育しやうといふその心が幼稚園の本體であります、その心はつまり言ひ換ればその心の持主即ち幼稚園の先生に外ならない、言ひ換れば幼稚園の中心は申すまでもなく先生である、さてその幼稚園の先生は如何なる人であるかと言へば立派な學者も居りませう、又澤山の經驗を積んだ熟練家も居りませう、しかしその學問もその熟練も幼稚園の先生としてはつまり如何にして子供の活動に満足と云ふのを與へてやらうか、それを誘ひ出してやらうか、それを正しく導いてやらうかといふ心に歸して了ふのであります。そこでこの子供に對する三つの心持、殊に子供の活動を満足さしてやりたいといふ心持は幼稚園の目的であるといふことに考へて來ましたけれども更に翻つて考へ

てみればこれは何も幼稚園といふものだけが持つてゐる心持ではないのであつて、その子供を愛するものゝ中で一番子供を愛するものは誰かと言へばその子供の親であります、親は子供に對していろ／＼のことを考へますけれども何よりも先に立つものは出来るだけその子を満足させてやりたいといふことに外ならない、又いやしくも考のある親ならば正當に満足させてやりたいと考へないものはない、世に所謂親心といふのはつまりこのことに外ならないのであります。ところで幼稚園の先生が子供に對して持つてゐる心持もこの親心と同じものに外ならないとすれば幼稚園の目的が何だといふことは決して理窟や學問から拵へ上げられたものでなくて、子供を愛する自然の人情に基くものだといふことが分るのである。幼稚園の先生はつまりこの人情に満ち溢れて居る人であつて、この人情に基いた働きを子供のために毎日して居る方々である。先生といへば何かを教へてくれる人といふ風に狭く考へられるけれども幼稚園の先生は教へるといふことよりはもつともつと廣い意味又深い意味での先生である。又先生といへば何となく事改つた特別な人のやうに聞えることもあるが幼稚園の先生はそれよりもつと自然な意味に於ての子供の叔母さんであり、又姉さんである、この先生は満ち溢れるが如き愛心を以て何うかして子供に満足を與へてやりたいと思はるゝばかりでなく、その特別な研究や經驗によつて最も上手に子供を遊ばしてゆく術を知つてゐる、但しその術といふのは輕業師や手品師の術といふやうなものでは勿論なくて、その先生の情愛から出る自然のうるほひ又暖かさが丁度露や日光が草の種子を喜ばし延ばしてゆくやうに子供を喜ばし、又その活動を引き出してゆくのである。

四、幼稚園のお友達

幼稚園の本體は幼稚園の先生であつて、その先生に依つて子供の活動が満足させられ又指導されて行くのであるといふことは幼稚園の如何なる處であるかといふことを知るに第一に考へなければならぬことでありますが、さてそれならば先生と子供とが居ればそれで幼稚園が出来るかと言へば決してさうではありません。若し先生と子供だけでいゝものならば、その先生をめぐりの家庭にお招きしてもいいわけであり、又その子を先生のお宅に託してもいゝわけである。而かも幼稚園が幼稚園でなければならぬ大きなわけはその幼稚園に集るところのお友達といふことにある。一口にいへば子供は幼稚園に來て先生によつて遊ばせられ満足を與へられると共に、お友達によつて遊ばせられ又満足を與へられる、この場合に於ては先生から遊ばしていただくとは違つた趣きがある。友達同志に於ては誰が誰を遊ばせるといふこともなく相互ひのことになる。又誰が誰に満足を與へるといふことが決まらないで、所謂お互ひごつこといふことになる、このお互ひ、相互ひといふことが幼稚園の幼稚園としての特別な意味を作つて來るのであつて、そこに幼稚園でなければ出来ないところの大きな利益もあるのである。事實から言つても子供が幼稚園の年齢になればこの相互ひの友達といふものを欲しがつて來る、幼稚園は子供のこの自然の要求を充たしてやらなければならぬ、又教育といふことから言つても人間が年長者や自分より有力な者から保護され又之に従つて行くといふばかりでなく、同等同力の者がお互ひに交りもし助け合ひもし、時には適當に相争ふといふことも小さい時から經驗さして置かなければならぬことである。幼稚園の大きな役目が矢張りこゝにあるのである。但しこれも亦子供の求めるものに満足を與へてやるといふのに外ならないのであつて、たゞその満足をお互ひ同志から得させやうとするのである、ところで友達同志といふやうなことは何も必ずしも幼稚園でなくても得られるではないかといふ人がある

かも知れない、この點に於て幼稚園はその友達を選んでやるといふことゝ、その友達同志を友達同志として十分に又正當に交らすといふところに大きな働きをして居るのである。即ち幼稚園の先生は自から子供に満足を與へ又指導すると同時にこの友達同志といふものを上手に結びつけ、又監督して行つて、それで子供を満足させ又指導して行くといふ間接の働きに力を盡して居るのである。孫の可愛くて可愛くてならぬお婆さんなどが幼稚園に來られて、先生がチツとも自家の子供の手をひいてくれない又、やほやと自家の子供の相手をしてくれないといふので不腹に思はれるといふことがないでもないが幼稚園の先生から言へばそれは自分でもしたくてならぬこと、又さうしてばかりゐていゝのであるならば寧ろやさしいのであるが、なるべく自分を子供に直接に出さないやうにして、蔭から子供の友達同志を上手に操つて行くといふところに何層倍かの苦心をしてゐるのである、而してそれでこそ、そのお子さんは幼稚園に來た甲斐があるといふわけなのである。

五、幼稚園の一日

さて以上述べて來た意味に於て幼稚園の一日は何ういふ風に行はれて行くか、これは全く細かい實際の問題になり、又その日々によつていろ／＼と變つて行きますから、皆さんが屢々幼稚園を訪はれて直接に御覽になり又お考下さらないければなりません。幼稚園といふものは同じ子供の保育をする場所であつても、小學校とは大層その趣きを異にして居りして、小學校ならば一週間、一學期、一學年の仕事の順序、内容がしつかりと確定も出來、實際を離れて説明することも出來るのでありますが、子供の活動を本體とする處、又子供の遊びが主になつて行く處でありますから、幼稚園の一日を實際を離れて斯く

の如きものであるといふことは六ヶ敷いのであります、殊に幼稚園としての本質に十分氣をつけてゐればゐる程、そのすることが子供の一人々々を主として、又子供に出来るだけ、わざとらしい特別な心持をもたせまいと致しますから學校のやうに毎日何時に鐘を鳴らして幼稚園全體が揃つて何をしなければならぬといふやうなことを致しません。その爲めに幼稚園の一日をキチンと型にて説明することは到底出来ないであります。しかし幼稚園が遊びを主にすると云つてもたゞ子供と先生が不規則に打ち混つて一日中遊び暮らしてゐるといふばかりではありません、幼稚園は幼稚園としていろ／＼に研究せられた方法を用ひて子供に歌もうたはせませす、繪も描かせませす、紙や又粘土などを用ひていろ／＼の製作もさせませす、而して是等のがそれ／＼の年齢の子供に何ういふ關係を以て役に立つものであるかといふことをよく考へて所謂自由の遊びの中に適當に加へて行きます。但し之は學校の學課とは全くその性質を異にしたもので、子供に何かを教へるとか又は子供を何かに上手なものにするとかいふ目的で課せらるゝものではありません。言はゞ多少組織立つた遊びと言つてもいゝものであつて、矢張り子供の活動を満足させ、又之を指導して行くといふことの外には出ないのであります。昔の幼稚園は是等のことを學校の課業のやうに考へ幼稚園の本質とは違つたやうな意味で斯ういふことをさせた場合もありましたが今日の幼稚園に於ては斯ういふことも何處までも子供の自然を基もとにして行つてゆくのであります。つまり子供は遊びたいと言つてもたゞわい／＼と騒いでゐるばかりで本當に満足するものではない、子供の心、殊に幼稚園に來る位の年齢の子供の心には自分の知つて居るものを歌になり繪になり形になり現はしたい、即ち作りたいたいといふ強い欲求を持つて居ります、これを最も子供に適した材料と方法とで満足さして行かうとするのであります。尙又子供は自分の心の中にあるところのものを自分で外に現はして行くこと

を喜ぶばかりでなく自分の心を持つて居るものをはつきりと、又力強く現はして貰ふといふことに非常な満足を感じるものであります、乃で幼稚園ではこの満足を與へる爲めに子供の喜ぶ繪を見せてやり音楽を聞かせてやり、殊にお話を聞かせてやるのであります。これも言ふまでもなく學校でして居ることとはその趣きが違つて、これによつて子供に新しい知識を増し與へて行かうといふことが必ずしも目的にはなつて居りません。繪の力、音楽の力、又巧みなお話の力によつて子供の心に満足を與へ、それによつて子供の心を楽しく延びさせて行かうとするにあります。又子供は年齢相應に實際の生活に興味を持つて居るものであります。言ひ換れば自分で出来る限りの用もしたい、仕事もしたいといふ欲求を持つて居ります。乃でこれを満足させるために草花の世話もさせます。鳥や家畜の飼育にも手傳はせします。相當な用事もさせます、但しこれもそれらの仕事に熟練させやうとか、又用事をさせて幼稚園の手助けをさせやうとかいふのではありません、それどころか、子供に是等の實際の仕事させることは便利どころか、何の位餘計世話のかゝることか分りません、しかしこれも又子供の自然に求むるところのものであり、又満足させて子供自身の爲に利益あることであるといふところからに外ありません。昔の幼稚園は斯ういふことにあまり意を用ひなかつたのでありますが、今日の幼稚園では次第に斯ういふことに重きを置くやうになつて來ました。

ところで是等のことを何ういふ風に子供にさせて行くかといふには一組の子供を一齊にさせることもありませう、又したい子供だけにさせるといふこともありませう、又部屋の中で決つた机の上でさせることもありませう、或ひは遊園の青天井の下、涼しい木蔭などでさせることもありませう、それらはずべてその時その場合によつて先生の適當なる處置に出づるのであります。全體幼稚園の教育はこちらか

ら計畫を決めて、その通りきち／＼と行つてゆくといふ性質のものではなくてすべての機會を捉へて行つてゆくといふものであります、熟練なる保姆は何時ともなく又傍から見てはまるで不秩序のやうな中に一人々々の子供にとつて適切な教育をして行くのであります。

斯くして幼稚園の一日はその間に適當の休息も與へて子供の心を弛めたり引締めたりして行きながら子供に十分の活動の満足と與へて行くのであります。その活動の満足は大人の方から見れば教育といふものであります、子供自身の方から言へば唯々樂しきこと、愉快なることであります。幼稚園が子供を幸福にし、子供を喜ばすといふことは勿論子供の御機嫌をとるといふ意味ではありませんが何よりも心がけて居るところであります。而してこれは幼稚園だからするといふよりも愛する子供に對する人情の自然に外ならぬものではありますまいか、若しもその反對に子供が幼稚園の一日を終つて「あゝ今日は誠に有益であつた」といふやうなことを感じたならばそれは子供として奇妙なことであり、又幼稚園が強ひてさういふことを感じさせたとするならばそれは幼稚園の大きな失敗と言はなければなりません、つまり幼稚園の一日は教育の結果といふことから言へば勿論有益なるものでなければなりません、子供にとつては實に楽しいものでなければなりません。即ち幼稚園は如何なる處かといふことを子供に問うたならば「好きな處」「楽しい處」「面白い處」と答へるであります。